

◇ 地理的分野「根拠を基に思考・判断する力を育てる指導の工夫」について No. 1

記録者 支部 名前

① 実践例・構想の紹介 (授業を構築する際のポイントから)

<福島> 北アメリカ州の自然環境 (松陵中・今川先生)

ポイント ② ③ を重点的に 特に ③ 学習課題の工夫 単元全体を貫く工夫

③ については パワーポイント, ICT機器の活用

<安達> 北海道地方 (二本松三中・白岩先生)

ポイント ② 米の生産について, 福島と北海道の農業比較

③ 統計, グラフ等の活用 ④ 話し合い活動の工夫

<郡山> 日本の農業とその変化 (郡山五中・今泉先生)

ポイント ③・④・⑤ を重点に

※ 郊として「話し合いの型」がある

→ 促成栽培と近郊農業の長所と短所

→ ③ 資料活用 有効な資料選択 資料の関連付け

生徒が自ら課題設定できるように 教科書の中の様々な資料を選択

2~3時間の授業時数で設定

<岩瀬> ヨーロッパ州 (須賀川三中・尾関先生)

ポイント ③ 資料選定・活用 客観性をもつ資料

④ 説得力のある表現方法の工夫

EU統合によるGDPの差 統合による利点を証明する資料を選択

GDPの変化による日本やアメリカとの競争力について

<石川> 日本の過疎 (ひらた清風中・大友)

ポイント ③・④ 統合後の廃校舎の有効活用について (村おこし)

② 文部科学省のパンフレット・ふるさと教育の副読本の活用

④ グルーピングの話し合い, 提言できるようなとめる。

<田村> 東北地方 (三春中・門馬先生)

ポイント ②・③・④ 特に ④ 学習形態の工夫を重点

③ 資料 国勢調査の速報値からグラフ作成

3つのグラフ (県内3地方の3町) から三春町を予想

実態に応じたグラフ提示 県のグラフとの比較から読み取り

④ 班内での学び合い 他者の意見を聞いて自分の意見を深める。(練り上げ)

<両沼> 中国・四国地方 (坂下中・笹川先生)

ポイント ③ ④ ③ 資料による揺さぶり ④ 学習形態の工夫

過疎・村おこし

③ グラフの作成, 村役場の職員の方からのお話 (ウターンコトカ)

<相馬> 世界各地の人々の生活と環境 (石神中・柴先生)

ポイント ③ 景観写真や文書資料から 雨温図から 気候や生活の特色を読み取る

乾燥した地域であることと体感 資料 (実物資料の活用)

④ 見通しを持たせて 氷を取り巻く環境から衣食住を中心にとめる

⑤ 追求した成果をノートにまとめさせた。

◇ 地理的分野「根拠を基に思考・判断する力を育てる指導の工夫」について No.2

② どの単元で、どのような実践が可能なか

① 郡山支部 での「話し合いの型」について

・ どのような方法で作成されるのか？

各教科で型を作成している（市の指導員の集まりの中で、意見や指導を参考にしながら）

・ どのようにして生徒に指導しているのか？

各校ごとに指導のしかたについてはお任せしている。

・ 話し合い活動（4人グループで）

① 郡山支部 日本農業について

他の単元（九州・中国・四国、関東）との関連づけ

課題追求の中で様々な資料を関連づけられる。資料により深まりが見られるのでは。

① 田村支部 国政調査を基にしたグラフの活用のかたについて

県のグラフから読み取り方を説明し、ベース化する。（読み取りの型とする）

読み取り方のミスが生徒に出ないように、読み取りが難しい生徒のためにも  
事象間の関連が見られるように

① 過疎・村おこしについて

どのような資料を活用していくか。地域性などを生かしながら

役場などの統計資料、町おこし・イベントなどの資料を活用しながら、

教科書にある高齢者による村おこしの例は理解しやすい。

若者にもどってきてもらう村おこしは考えにくい（むしろに還元しやすい）

還元される村おこしを。

① 話し合いのかた(型)を学校でどのように指導しているか

統一してか、教科ごとか